

令和6年度 学校経営計画・学校評価			☑4月4日提出	☑10月3日提出	☑3月14日提出	学校番号	11	高知東工業	高等学校	課程	全
高知県の教育の基本理念	(1)学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2)郷土への愛着と誇りをもち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3)多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人		基本方針	①予測困難な社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④各種施策を総合的・計画的に推進するために必要な基礎的・基盤的な環境・体制等の整備							
	【アドミッション・ポリシー】(入学受け入れ方針)			【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針)							
	○ものづくりや資格取得に興味・関心がある生徒 ○基本的生活習慣を身に付け、規律ある集団生活ができる生徒 ○部活動や生徒会活動等に積極的に活動できる生徒 ○機械、電子、電気等の専門知識を生かして社会で活躍したい生徒			○就職、進学に対応した選択科目を設置します。 ○普通教科の一部は習熟度別、少人数制の授業を行います。 ○タブレット等ICT機器を用いた授業を行います。 ○工業実習では、基礎的な知識・技能を習得させるとともに、最新の実習設備や機器を活用してデジタル化に対応した実習を行います。 ○工業に関する資格試験への挑戦や各種コンテストへ参加を推奨し、生徒のスキルアップを支援します。 ○地域と連携し、地域貢献活動、展示会、課題研究発表会、国際交流等、生徒の活躍する場面を設定し、ものづくりの魅力を外部に発信します。							
スクール・ポリシー	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力)										
	○規律ある態度や将来の技術者の規範意識を持ち、ものづくりの楽しさを感じ、最後まで諦めずに挑戦できる方を育成します。 ○機械科 機械に関する技術・技能を持ち、社会で生かす意欲を持っている。 ○機械生産システム科 機械生産システムに関する技術・技能を持ち、社会で生かす意欲を持っている。 ○電子科 電子に関する技術・技能を持ち、社会で生かす意欲を持っている。 ○電子機械科 電子、機械に関する技術・技能を持ち、社会で生かす意欲を持っている。										
学校関係者評価											
【学力の向上】 評価 【 A 】											
入学時より学力が向上している様子がうかがえる。教職員が一人一人の生徒を大切に、丁寧に対応していることがよく分かった。											
【社会性の育成】 評価 【 A 】											
就職内定率100%を維持していることは素晴らしい成果であるし、「将来の夢や希望を持っている」肯定的回答が増加していることも素晴らしい。											
【チーム学校】 評価 【 B 】											
学校の振興に関しては、特長を生かした取り組みがなされていると思う。不祥事を無くすことや働き方改革の推進がこれからも大切になっている。継続した取り組みが必要。											

		育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
重点項目	学力の向上	★確かな学力 ○基礎的・基本的・発展的な知識及び技能 ○思考力、判断力、表現力等 ○学びに向かう力、人間性等 ★将来を見通した学び ○将来にわたって学び続ける意欲(学習習慣を含む)	【現状】 2年生は、入学時にD3層が4割近くいたため、勉強への苦手意識や徒労感を訴える生徒に興味関心や自信を持たせる取組を進めている。 【目標】 ①C層生徒の割合を入学時より増加させる ・1年(28)%→目標(35)% ・2年(17)%→目標(35)% ②「授業外学習をする」生徒を60%以上にする ③検定・資格への受験者増加 R5のべ361名	・朝の小テストの実施 ・放課後補習、補力補習の実施 ・宿題による、家庭学習の習慣づけ ・SPI講習会の実施 ・提出物の徹底と添削指導 ・ICTの効果的な活用(すららを使った個別最適学習)	C ・C層以上 2年 17%(基礎力1回目) ・D3層 1年38%、2年29%(入学時39%) ・D層 1年72% 2年83%(入学時75%) ・1学期は「すらら」の利用状況が思わしくなかった(再検討) ・夏休みを「タブレット持ち帰り期間」として設定 ・基礎学力の向上に努めているものの、生徒の学習意欲の向上が困難なことが課題である ・一方、D3層の生徒からも補習等による支援で電気工事士などの国家資格合格者も出ている	・放課後の補力補習、授業内での小テスト、タブレットで「すらら」等の課題を課すなど、地道な取組を継続。 ・C層以上の減少傾向について、学力向上委員会等で再検討する	B ◎「C層以上割合」 1年 1回目から2回目、1%程度向上 2年 1回目から2回目、21%程度向上 ◎「授業外学習をする」(基礎力診断2回目) 1年 65.9% 2年 73.8% ◎検定・資格への受験者数 438名(77名増)	・C層以上割合は向上し、2年生は目標値を達成した。先生方の根気強くてゆみない努力の結果である。今後ともさらなる向上を目指し、学力向上委員会等での検討を続ける ・放課後補習や資格取得指導等への先生方の取組が向上した原因と把握し、県の目標数値まで今後も継続して取り組みを進める
	社会性の育成	★豊かな心 ○自己存在感、自己有用感、コミュニケーション力、自己決定力等 ★多様性・包摂性 ○キャリアデザイン力(やりぬく力) ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	【現状】 昨年度と比較し生徒指導件数が増加したが、就職内定率は100%を継続している。 【目標】 ①高校3年生の「将来の夢や希望を持っている」肯定的回答90%以上 R5:78.4% ②大学・専門学校・企業見学、インターンシップに参加する生徒の割合を100% R5:100% ③就職内定率100% R5:100%	・家庭・関係機関等と連携した全体・個別指導 ・キャリア教育講演会の実施 ・ビジネスマナー講習会や就職、進学ガイダンスの実施 ・イベント参加や各種発表会への参加 ・文化祭などの学校行事 ・学年集会の開催 ・ボランティア活動の定期開催	B ・高校3年生の「将来の夢や希望を持っている」肯定的回答90%以上 R6 1回目84.5% ・インターンシップ・オープンキャンパス等へほぼ全員が参加 ・PTAによる面接練習実施	・学校行事等を通し生徒の人間性の成長を図る ・進学先や企業、仕事内容等を知る機会を数多く設け、将来についての見通しを持たせる ・生徒の情報共有を密にし、一人一人を大切に指導を丁寧に行う	A ①高校3年生の「将来の夢や希望を持っている」肯定的回答 82.8% R5:78.4% ②大学・専門学校・企業見学、インターンシップに参加した生徒の割合99% R5:100% ③就職内定率100% R5:100%	就職内定率は100%を維持している 生徒たちが将来に希望が持てるよう、現行の取組を維持しつつ見直しを図っていく 国際交流や各種イベント・発表会に積極的に参加し社会性の育成を図る
取組項目	地域協働学習	【取組のねらい】 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	【現状】 検定・資格取得に力を入れ一定の成果を上げているが、地域や社会への貢献度・認知度をあげる必要がある。 【目標】 ①検定・資格等の合格者の割合を65%以上 R5:60% ②「地域貢献活動やボランティア活動を行ったことがある」肯定的回答50%以上	・検定・資格試験に向けた補習の実施 ・生徒会を中心としたボランティア活動への参加 ・生徒を主体とした防災活動・訓練等の実施 ・「ものづくり教室」実施を含めた関係機関が実施する各種イベントへの積極的参加 ・教員の専門力向上を図る研修会への参加	B ・各科指導による資格試験への挑戦は継続中 ・ごめん駅清掃活動を年間通して実施中 ・生徒会を中心とした各種イベント参加(3回) ・学園祭時に地域住民等への案内状配布(生徒会)	・10月の学園祭では南国市の小中学校に案内を出した「ものづくり体験教室」を実施 ・また、学園祭中に防災訓練の一つとして「引き渡し訓練」を実施 ・3学期の防災訓練では地域の方々参加のもと、避難訓練を計画(生徒会) ・来年度にかけて防災グッズを開発・製品化し、地域の施設に寄贈を計画(生徒会)	B ①検定・資格等の合格者の割合62.7%(R5:60%) ②「地域貢献活動やボランティア活動を行ったことがある」肯定的回答70%	検定・資格試験への指導は継続実施。受験者を増やす取り組みを続ける 地域と協働した防災訓練や防災活動を7年度には本格実施 生徒とともに話し合いを続けていく
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	【現状】 各教科で取り組んではいるが、意識しての回数設定等はいっていない。 【目標】 ①言語活動や情報活用能力を育成する場面を各教科学期に1回以上 ②実社会での課題発見や解決に結びついている「課題研究」の成果物100%	・指導力向上を目指した授業相互参観 ・生徒発表に関する教員指導力向上研修 ・ICT活用に関する校内研修 ・社会貢献を意識した「課題研究」テーマ設定	B ・各教科で言語活動や情報活用能力を育成する場面を実施 ・ICT活用研修実施 ・音楽と工業での教科横断的授業(カリンバ作成における工業実習との連携)	・複数教科によるTTの実施を計画 ・課題研究による社会貢献	B ①言語活動や情報活用能力を育成する場面を各教科学期に1回以上実施。 ②実社会での課題発見や解決に結びついている「課題研究」の成果物100%	ICTを含め情報活用能力や言語能力の育成は年間を通じて行えた 教科横断的教育に関してはシラバス作成以前に考慮する必要があるため、今後の課題である
		取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】
チーム学校	学校の振興	★学校の魅力化 ○地域との連携・協働 ○学校PRのリニューアル ○部活動の活性化 ○国際感覚の醸成	【現状】 学校運営協議会より課題として生徒数確保への学校PR不足、授業外学習の不足の解消が提言された。 【目標】 ①学校PRのためイベント参加年間5回以上 R5:5回 ②インターネット(HP・SNS)を利用した情報発信毎月更新 ③デジタル教材活用等のためタブレット持ち帰り70%以上	・学校パンフレット(スクールガイド)の改訂 ・学校紹介ビデオのリニューアル ・学校Instagramの創設・運営 ・ものづくり教室を主体としたイベント参加 ・タブレット持ち帰り期間の設定 ・部活動計画の見直し・加入率増加への働きかけ ・韓国の柳韓工業高校との交流	B ・部活動活性化に向けた取り組み(県体全校応援、体験入学での部活動新聞配布等)を実施 ・HP・Instagram・イベント参加・広報活動等を担当のみでなく学校全体としての取組として行う ・柳韓工業高校との交流を計画	・柳韓工業高校への訪問を計画(12月) ・学校PRチームを中心とした精力的なHP・Instagramの更新、新規提案等	A ・ものづくり教室を主体としたイベント5回参加 ・学園祭で各科ものづくり教室実施 ・学校Instagramでの発信 投稿112 フォロワー408 ・ミニ体育祭(12月)の実施 ・柳韓工業高校へ訪問(生徒2名) ・学校パンフレット全面改訂 ・学校紹介ビデオリニューアル	様々な取り組みを実施したが東工業高校の認知度・PRは十分だと言えない 今後更なる課題発見や取り組みの見直し等が必須の課題
	不祥事防止	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	【現状】 懲戒処分等は起こっていない。軽微な事案が発生しないようにする対策を考えている。 【目標】 ①校内研修2回実施 ②不祥事防止委員会3回実施	・発送文書等の複数確認の遵守 ・相談や仕事依頼のしやすい雰囲気づくり ・管理職の執務室巡回による声掛け ・不祥事防止委員会の発足・運営	C ・文書誤発送事案発生 ・4月より毎月不祥事防止委員会を開催 ・不祥事防止研修会を実施	・文書発送における根拠資料確認の徹底とトリプルチェックの徹底 ・一人で仕事を抱え込まないよう職員同士の声掛けや雰囲気を意識した職場づくり	B ・毎月不祥事防止委員会を開催 ・不祥事防止研修会を12回実施	発送文書に対しては常に危機感をもったチェック体制を徹底し、注意喚起を続ける 不祥事防止には教員の自覚が生命線であり、行動する前の想像力を要請できるような研修を重ねていく
	働き方改革	★長時間勤務の解消 ○部活動方針の徹底 ○計画的な補習(資格等)の実施 ○分掌の相互協力	【現状】 R5年度月45時間を超える時間外勤務を行った教職員は、のべ15名であった。 【目標】 ①すべての教職員において時間外勤務45時間以上の月を年間3か月以内 ②すべての教職員において時間外勤務を月80時間以内	・部活動の分業体制の推進 ・分掌の横断的協力体制の構築 ・会議の精選・縮小、資料の簡素化 ・検定・資格取得の補習計画の確認・調整 ・期間限定業務による時間外勤務超過教員への声掛け・確認	B ・体育館使用停止を受け、全職員を運動部活動顧問に登録し、分業体制の構築を行った ・4～9月、時間外勤務45時間以上のものが9名であった ・昨年に引き続き会議や会議資料の簡素化を実施	・ICT機器の活用範囲の拡大 ・計画的な補習・部活動の実施 ・教材の共有 ・会議の精選、委員会の削減、作成資料の簡素化	B 月45時間を超える時間外勤務を行った教職員は、のべ13名 ・長時間勤務報告に毎回該当者が出てはいるが、時期的な業務によるもので改善が見込まれるものが多い ・委員会の削減・会議資料の簡素化等には好評を得るものも多かった	・教職員の心身の健康を一番に、業務の改善・見直し等を継続していく必要がある